opusdei.org

属人区長の書簡 (2014年12月)

キリスト信者にとって、キリストの再臨への思いは希望の源です。12月は、キリストの地上での最初の到来、ご降誕祭を思い出すための準備をする月です。

2014/12/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 典礼暦の新年が始まりました。ここ 数ヶ月に、そしていつも、豊かに頂 いている恩恵を、今年も引き続き神 がお与えくださるよう願っていま す。残り少なくなった2014年の忘れ 得ない出来事は何といってもドン・ア ルバロの生誕百年祭とその列福式で す。幸せに至る道を徹底して忠実に 歩む望みを深め、また、イエス・キ リストとの一致を深めるため、熱意 を傾けて、日々、回心に励むことで す。今は、心底納得して度々「有難 うございます、ごめんなさい、もっ と助けてください」と繰り返す絶好 の時季です。これからの数週間、よ り熱心に感謝を捧げましょう。それ と同時に、神の御慈しみを心から信 頼して、私たちと全人類の罪のため に免償をお願いしましょう。そし て、教会とその一部であるオプス・ デイのため、私たち一人ひとりと全 世界のため、神のご保護を倦むこと なく願うことにしましょう。

待降節一週目の典礼は、世の終わり のキリストの来臨について考察する よう勧めています。聖パウロが、主 の栄光に満ちた来臨を控えた世界の 様子を要約してこう述べています。 「アダムによってすべての人が死ぬ ことになったように、キリストに よってすべての人が生かされること になるのです。ただ一人一人にそれ ぞれ順序があります。最初にキリス ト、次いで、キリストが来られると き、キリストに属している人たち、 次いで、世の終わりが来ます。その 時、キリストはすべての支配、すべ ての権威や勢力を滅ぼし、父である 神に国を引き渡されます。(・・・)す べてが御子に服従するとき、御子自 身も、すべてを御自分に服従させて くださった方に服従されます。神が

この信仰の真理は、私たちを希望で満たし、強め、特に、病気や死、こ

すべてにおいてすべてとなられるた

めです| 「1〕、

う|[2]。ヒッポの聖司教の勧めは いつの時代にも通用します。キリス ト信者は、「この世のものを使いま すが、この世のために働くのではあ りません。これはどういう意味で しょうか。使徒が、持てる者は持っ ていないかのように生きる(・・・)と 言っています。思い煩わない人は、 主の来臨を確信しているのです。事 実、キリストを愛しているのならど うしてその来臨を恐れることがあり ましょうか。兄弟たちよ、恐れると は恥ずかしいことではありません か。主を愛しています、といって も、来臨を恐れます。

本当に主を愛しているのですか。主 以上に私たちの罪を愛しているので はないですか。私たちは、罪を憎 み、罪を罰するためにおいでにちる はずの方を愛しましょう。私たちが 望んでも望まなくても、主はお出 になります。今来られないから、後 にも来られないということにはなり ません。いつかは分かりませんが、 主は必ずお出でになります。しか し、準備しているなら、その時が分 からなくても全く問題ではありませ ん」[3]。

信者は主の再臨を恐れたり心配する ことはありません。逆に、通常は目 立たないことですが、善行をするよ う励まされるはずです。難しいこと ではなく、常に、キリスト者として 神の国を広める主に協力するよう振 舞うだけで充分です。神の国は、時 が満ちて世が終わるまで、目立たず に大きくなっていくものです。聖ホ セマリアが度々思い起こさせてくれ ました。「前途には大きな仕事が 待っています。受身の態度では消極 的すぎます。『私が帰るまで、これ で商売しなさい』(ルカ19.13)と、主 ははっきりおおせになりました。主 がその王国を完全に所有するために 引き返されるのを待っている間、手 をこまねいているわけには行きませ

ん。神の御国を拡げる仕事は、キリストから神聖な権能を授けられたキリストの代理となる教会の聖職者のみが携わるべき課題ではないのです。『あなたたちはキリストの体である』(1コリント12,27)と言う使徒聖パウロは、最期まで仕事を続けよと命じています」[4]。

多分、自分は才能もないし、すぐれ たところもないとか、やっているこ とも単調だし、人々や世の中の問題 にもあまり関わっていないなど、考 えるかもしれません。スペインでの 宗教迫害時代、ある領事館での避難 生活中の創立者の勧めがあります。 当時は、司祭職を自由に遂行するこ とはできず、一いわば一外的に活動 がまったくできないときでしたが、 一緒にいたごく少数のオプス・デイ の信者たちをこう励ましていまし た。「私の生活は今、非常に単調 だ。この強制された休息の中で暗闇 に覆われているような時に、神から

頂いた賜をどのように活用できるだ ろうか。忘れないでください。あな たは雪に覆われた火山のようです。 氷の張り付いた外側とは裏腹に中で は火が燃え盛っているのです。確か に外面上は単調さと暗闇という氷に 覆われていて、動きが取れないよう です。しかし、内面では、情熱を燃 え立たせ、外的活動の不足を内的活 動で懸命に補い続けることに疲れな いようにと励んでいます。私と全て の兄弟の状況を思うと、私たちの停 滞状態はきっと豊かな実りをもたら すでしょう。私たちの非常に僅かに 思える仕事から、時の流れの中で、 素晴らしい建物が現れるでしょう | $[5]_{\circ}$

教皇フランシスコも数日前にこのことを思い起こさせてくださいました。「私たちは、愛を持って生き、日々の仕事においてキリストの証人として自己を捧げつつ聖人になるように招かれています(・・・)。あなたの

家で、通りで、仕事において、教会で、この時に、そしてあなたの立場において歩む聖性への道が開かれたのです。この小径を歩むことに倦んではなりません。そうならないよう神は恩恵をくださるのです。主はただ、兄弟に仕えるときに主と共にするよう頼んでおられるだけです」[6]。

先月、度々思い起こしてもらったように、天国ではすでに数知れないオ

天国でキリストと共にあり、主の栄 光あるお供としてやってくる数知れ ない聖人たちの中に、この世で親親 く交わった多くの人たちを見るもれ く交わった多でしょう。私たちは 何という召し出しに忠実の仲間のよって 御憐れみによって彼等の仲間のる ことができるでしょう。「こクト16 世は続けておられます一、キリスト の再臨に同伴するグループの一部を 形成し、キリストを新たな形で示し、確信させます。イエス・キリスト は過去の方でも、遠い未来に属な方でもありません。誰もそれが、を 類う勇気を持ち合わせませんが、を 傾う列を作る多くの聖人たちを は、行列を作る多くの聖人たちを は、てお出でになります。かへ、今 人たちを通じて私たちの方のです」 [8]。

待降節は、クリスマスにイエス・キリストが人となられたことを思いると共に霊的に主をお受けに12月17日からの典礼がそれを促しだす。なイエスがそれぞれの心に来でももできると出会う機のご聖体拝会にもおいて、また霊的にも諸々のとは特にもまた。ことができます。ことができます。ことに待降節の霊的な雰囲気の中で体験

され、クリスマスを迎える準備に拍 車がかかります。

教皇フランシスコはイエスの誕生に ついて考察するよう呼びかけておら れます。イエスの降誕は「不安と悲 観主義を乗り越える、信頼と希望の 祝いです。わたしたちの希望の理由 はこれです。神はわたしたちと共に おられます。神は今もわたしたしを 信頼してくださいます。このことを よく考えてください。神はわたした ちと共におられます。神は今も私た ちを信頼してくださいます。(・・・) 神は人間と共に住むためにこられま す、神はご自分の住まいとして地上 を選びます。それは、人間と共にい て、人間が喜びと悲しみの日々を送 るところでご自分を見出させるため です。地上はもはや単なる『涙の 谷』ではなく、神ご自身が天幕を張 る場です。地上は神と人が出会い、 連帯する場となるのです| [9]。

始まったばかりのこの典礼節は、ク リスマスに備えて、私たちを神の御 子の受肉という神秘の前に立たせま す。また、父なる神が、御子におい て、聖霊を通して私たちをご自分に 引き寄せ、私たちがご自分と完全な 喜びと平和の交わりを生きることが できるようにする、神のbenévolo designio[10](秘められた計画)の前 に立たせてくれます。自分自身の心 や社会に、善よりも悪が勝利を得て いるように思えるときがあります が、そんな時には悲観主義を追い払 いましょう。「待降節は、あらため てわたしたちを招きます。多くの困 難のただ中にあっても、神がともに いてくださるという確信を新たにし なさいと。神は世に入ってこられ、 わたしたちと同じ人となり、ご自分 の愛の計画を実現されます。神はま たわたしたちに願います。あなたが たも、世におけるわたしの業のしる しとなりなさい。神は、わたしたち の信仰と希望と愛を通して、つねに

新たに世に入って来ることを望まれます。わたしたちの闇の中で、ご自分の光をつねに新たに輝かせようと望まれるのです」[11]。

キリストの栄光の来臨は全ての不正 と罪に終止符を打ちます。しかし、 主は今、贖いのみ業の実りを人々に 伝える手伝いをするようにと私たち を呼び集められたのです。数限りな い人々が無意識のうちに、あなたと 私から、多くの善意の人たちから、 神の子が現われることを待ち望んで いるのです[12]。私たちは、生活 を繰り広げているこの世が、あらゆ る問題や数々の食い違いで、没個性 的で盲目的な宿命を負わされてし まった居心地の悪いところになった のではなく、神と出会う喜ばしい場 所であることを、行いと言葉で人々 に示さなければなりません。神はそ の慈しみによって、御子を世に遣わ し、聖霊の現存のうちにいつも教会 に留まられるようにされたのです。

その信者と協力者、そして全世界の ための私の祈りに心を込めて一致し てください。

私と一緒に喜んで欲しいのですが、 モスクワのカテドラルで福者アルバロ・デル・ポルティーリョを称える荘厳ミサを捧げました。このごミサは三位一体への感謝の表れのひとつです。五大陸の町々で捧げられたたくさんの感謝ミサに一致します。

典礼のChristus natus est nobis という言葉を味わうようお勧めして終わりにします。キリストは私たちのためにお生まれになったのです。神はどんなに私たちを愛しておられることか。神は、常に主において生きるようにお望みなのです。聖家族に私の意向のためにお願いしてください。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。 皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2014年12月1日

[1]1コリント15,22-28。

[2] 聖アウグスチヌス、詩編 95,14-15についてのコメント (CCL39, 1351-1353)。

[3]同上。

[4] 聖ホセマリア、「知識の香」121番。

[5] 聖ホセマリア、1937年7月6日説 教のメモ("Crecer para adentro", p. 189)。

[6] 教皇フランシスコ、2014年11月 19日一般謁見での講話。 [7] ベネディクト16世、2007年12月 21日講話。

[8]同上。

[9] 教皇フランシスコ、2013年12月 18日一般謁見の講話。

[10] エフェソ 1,9。

[11] ベネディクト16世、2012年12 月5日一般謁見の講話。

[12] ローマ8,19参照。

[13]ルカ2,14。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-12yue/ (2025/12/16)